

### 3. 骨密度測定検査

当院では、医療機器整備の一環として、日立製 X 線骨密度測定装置（DCS-900FX）を設置し、平成 29 年 5 月より新病院の開院と同時に稼働しています。



骨密度測定は、1つの部位で全身の骨密度を評価することはできず、評価したい部位を個々に測定することが大切です。

そこで、当院では、骨折時に最も QOL（Quality of Life：人生や社会的な生活の質）の低下が著しい大腿骨近位部（股関節）と椎体（腰椎）の骨密度測定を行います。

なお、測定されたデータはすべて保存され、次回検査時に比較できるようになっていますので、定期的な検査をおすすめします。

#### <気になる方は早めの検査を…>

- ・カルシウムを服用している方
- ・閉経前後（40歳代以上）の女性
- ・腰痛や肩こりでお悩みの方
- ・骨の年齢を知りたい方

#### <検査の流れ>

測定装置のベッドに寝ているだけで、検査は終了します。

- ①腰椎と股関節の撮影を行う。（各1分程度）
- ②検査結果が出来上がるまで、廊下でお待ち頂く。（5～10分程度）
- ③検査結果の用紙を持って、各診療科へ行く。

## <検査結果の見方>

検査結果は、同年代と比べた割合（％）及び若い成人と比べた割合（％）が表示されますが、骨密度の評価は主に若い成人と比べた割合（％）を使用します。従って、同年代と比べて骨密度が同じくらいであっても安心はできません。

### 【検診における判定基準（骨粗鬆症の予防と治療のガイドライン 2015）】

- ・異常なし : 若い成人の 90 %以上
- ・要指導：骨量の減少（危険信号） : 若い成人の 80 %～ 90 %
- ・要精査：骨粗鬆症の可能性あり : 若い成人の 80 %以下

### （骨密度の検査結果 例）

